

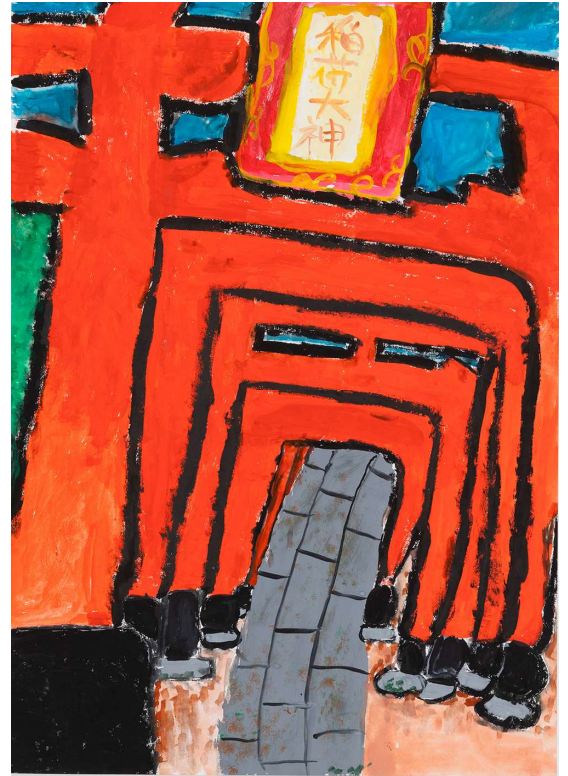


ぼくんちのザリガニ

岩佐 光琉 小2(境港市)

この時期の子どもたちは、生きものに興味津々です。大切に世話をしているザリガニが、まん中にドンと描かれており、迫力満点です。それに対し、まわりにはかわいい魚たちが一つ一つ丁寧に描かれており、カラフルに散りばめられています。

水中の生きものたちが、おたがいに仲よくくらしている様子が伝わってくる温かな絵です。



鳥居のトンネル

長谷川 旭陽 小4(南部町)

特別賞

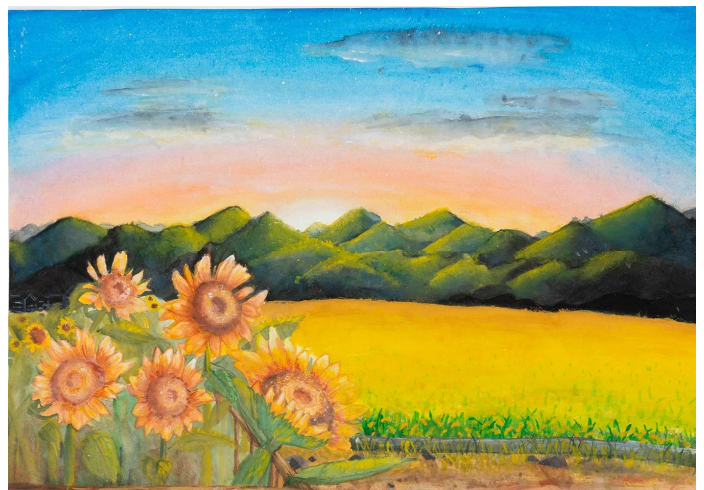
画面いっぱいに大胆に鳥居を描いた構図、そして鮮やかな朱色と存在感を引き締める力強い黒の色合いが、見ている人を引きつけます。どこまでも続いている鳥居の様子をトンネルに例えた視点にも面白さを感じます。ありのままを描くのではなく、目に見えたもの以上に、記憶に残ったことや印象に残ったことを思い切り描こうと、楽しんで表現しようとする作者の生き生きとした姿が目浮かぶようです。

晩夏

田邊 明七 小6(南部町)

太陽の光にこだわりを感じる作品です。遠くの山々から手前のひまわりまでにさす日の光の表現が、とても素晴らしいです。また、太陽こそ、はっきり描かれていませんが、光の様子やそれによって赤みを帯びた空の感じなど、その色合いは、とても美しく目を引きまします。

夏の終わりと秋の気配を感じる景色を、作者が一筆一筆でいねいに描いている様子が、作品全体から伝わってきます。





夏日

吉岡 花音 中1(米子市)

窓辺に置かれた金魚鉢が画面中央にデンと配置されています。映り込んだ空や風景はガラス面の球体に沿って配され、金魚の鮮やかなオレンジ色や貝殻などが配色のポイントになって目をひきます。テーブルに映ったオレンジ色などもしっかりと観察されて、丁寧に描かれています。

深海の光

加藤 弘大 中2(倉吉市)

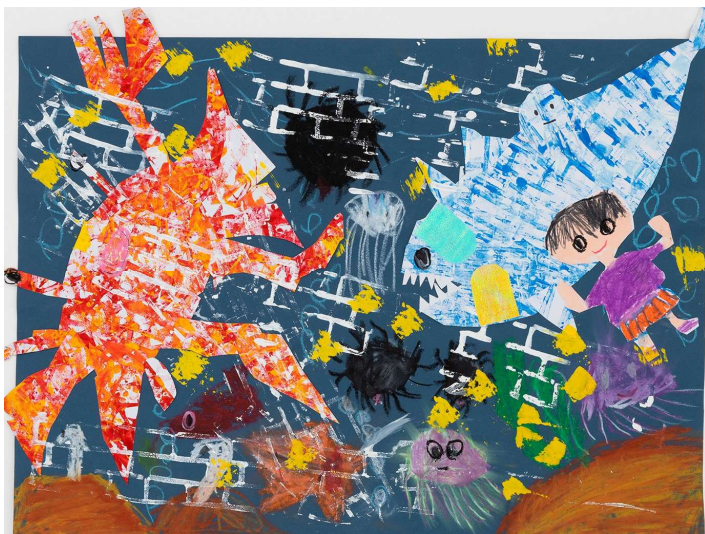
自発光する深海魚が巧みな色づかいで描かれ、画面から飛び出してくるようなほど迫力ある作品に仕上がっています。照らされた部分のハイライトの付けかたも目をひきます。作者には、怪異なものへの畏敬と好奇心の両方があるのかもしれませんが、イラストボードに塗り重ねられた絵具の厚みや勢いのある筆触から、制作にかけた熱量が伝わってきます。これからも想像力を糧に、独自の表現を追求して行ってほしいと思います。



猫とサーフィン男

大塚 壮翔 中3(八頭町)

ダイナミックな動きの一瞬をとらえたような作品です。止まった時間の中に「永遠」を感じ、みる人は引き込まれるのかもしれません。その魅力を支えているものが3つあると考えます。余白と色と筆づかいです。それらはすべて、表したいものやことのために、これまで学んできたことの中から自ら選択し用いているようです。それを選択できること、選択したことを実行できることに作者の力が余すところなく表れている作品です。



ひろいうみであそんだよ

杉本 柚子 小1(八頭町)

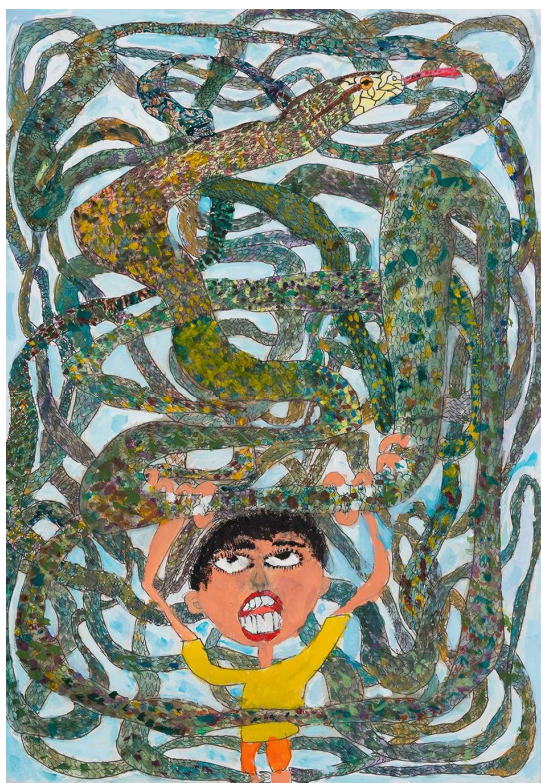
スタンプ遊びを楽しみながら、魚の形や海の中の様子を勢いよくつくり上げています。



いろいろミックスクリームソーダ♡

太田 景 小2(米子市)

いただきます♡世界で一つ、きらきら輝く宝石箱のようなクリームソーダを召し上がれ。自然と笑みがこぼれる作品です。



びっくりアオダイショウ

國政 蒼音 小4(智頭町)

ぐるぐると今にも身体からだに巻きつきそうなアオダイショウの不気味さが画面いっぱいに表れています。



たまごから とび出したロケットとうちゅう

桑村 紗季 小2(八頭町)

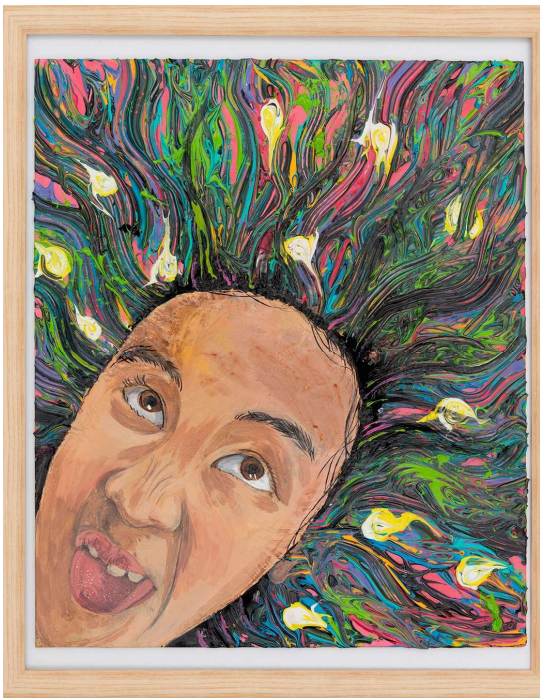
たまごが割れるとそこは壮大な宇宙。どんな冒険が始まるのかわくわくドキドキです。



外江の伝統のお祭りチョーサ神輿

宇山 弥緒理 小4(境港市)

大迫力のお神輿^{みこし}と取り囲む人たち。お祭りにぎわいが絵から伝わってくる作品です。



あふれでる才能

山本 侑奈 小5(鳥取市)

見えない才能を力強い曲線と鮮やかな配色で表しています。わくわくする作品です。



がんばって作ったカレー、その味は？

徳澤 晴人 小4(鳥取市)

みんなで作ったカレーは、おいしいに決まっていますよね。早く「いただきます」にならないかな。



夏の日

堀江 奈菜美 小6(伯耆町)

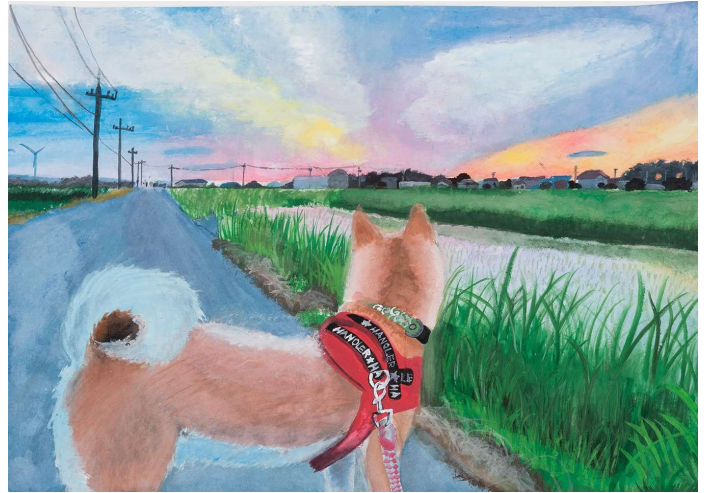
同じ景色でも時間の変化とともに見え方の違いが楽しめる味わい深い作品です。



お祭り わっしょい!

山本 果歩 小6(米子市)

お祭りのにぎやかで楽しい様子が神輿みこしを担ぐ人たちの表情や仕草から伝わってきます。



ぼくの散歩道

國谷 文乃 中1(大山町)

愛犬との散歩。夕方の情景がよく描かれています。特に空の表現が上手ですね。



抹茶色の夏

片岡 彩希 中2(米子市)

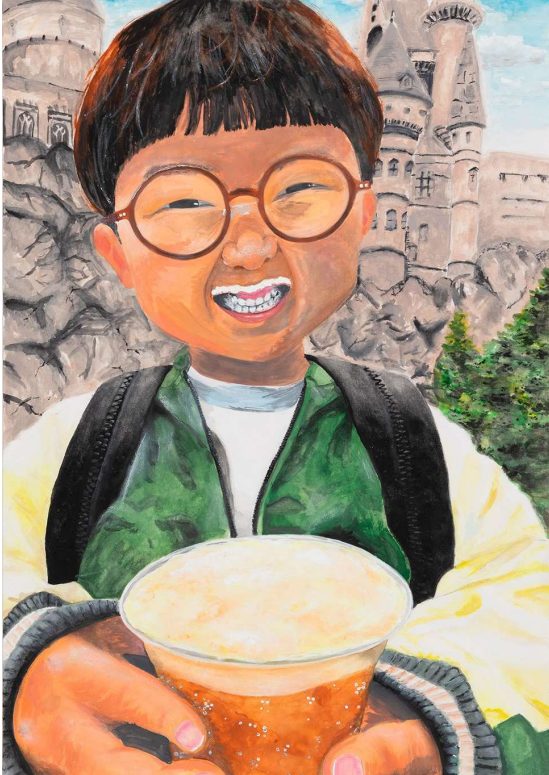
かき氷をシャクっとすくう一瞬の動作を、水彩の透明感を生かし上品にまとめています。



我が家の2大アイドル

泉 元 中1(鳥取市)

画面一杯に描かれた男性と小鳥。バックの黒の部分が画面を引き締めています。



オトナ気分の5歳児

小椋 凜子 中2(大山町)

ご満悦の表情をよく観察し、髪の毛や鞆かばんのステッチなど細部まで丁寧に描かれています。



みいつけた!!

澤田 茉希 中3(八頭町)

登場人物の表情やポーズの魅力を、色面で表す確かな技術が、より引き立てています。



夢の少女

小川 あい 中3(米子市)

安らかな表情、画面を埋める黒髪と花模様が現実離れた魅力を感じさせる作品です。

(講評及び作品評は各部門審査員が執筆)

●小学校

作品から作者の思いや表現したかった事が色や形、構成によって強く伝わってくる優れた作品を各賞に選びました。

低学年は、動物や魚、昆虫などの生き物を題材に楽しく表現した作品が目立ちました。中学年は、思い出の体験や風景などを大胆に表現したのからデザイン作品に至るまで、様々な作品が見られました。高学年は、素材となる対象への思いや作者の内面的な感情を作品に込めながら丹念に描いた作品が目を引きました。

今年度は昨年を上回る2,214点の応募がありました。学校単位で応募された絵画だけでなく、各ご家庭で制作された絵画も多くあり、本展覧会への関心の高さがうかがえました。

●中学校

昨年度に比べ、応募点数が100点余り増え、中学生が作品に多く向き合っていることをとてもうれしく思います。

さて、中学生のみなさんに改めて聞きます。作品の魅力とは一体何でしょう。それは決して表面上にある緻密さや写真そっくりに描く技術だけではありません。自分がみて感じたこと、言葉だけでは表現できない気持ちなどが作品から感じられるものではないでしょうか。そしてそれらを表現するための選択肢として、色や形、構図、空間や立体感、描写などの知識や技能はあるのだと思います。筆をとる理由やきっかけは様々だと思いますが、中学生のみなさんが日頃感じている自分や周りの世界、喜びや悲しみ、不安や苦悩などを、ぜひ作品という形で表現してみましょう。きっとあなたにしか表せないものになるはずです。

●特別賞 「鳥居のトンネル」 長谷川 旭陽 小4(南部町)



作者が感じた大きな鳥居の存在感や、石畳がまるでトンネルのように続いていく様子が構図に表されています。大胆に塗られた朱色にメリハリのついた黒が、見る人により力強く印象付けます。記憶の中で強く印象に残った思い出や出来事から想像を膨らまして、力いっぱい表現すること、表したいものを思い切り描くことの良さをさらに伸ばし、今後も自分の好きなものを楽しんで描いてほしいと思います。